


わが国の水産業

いか



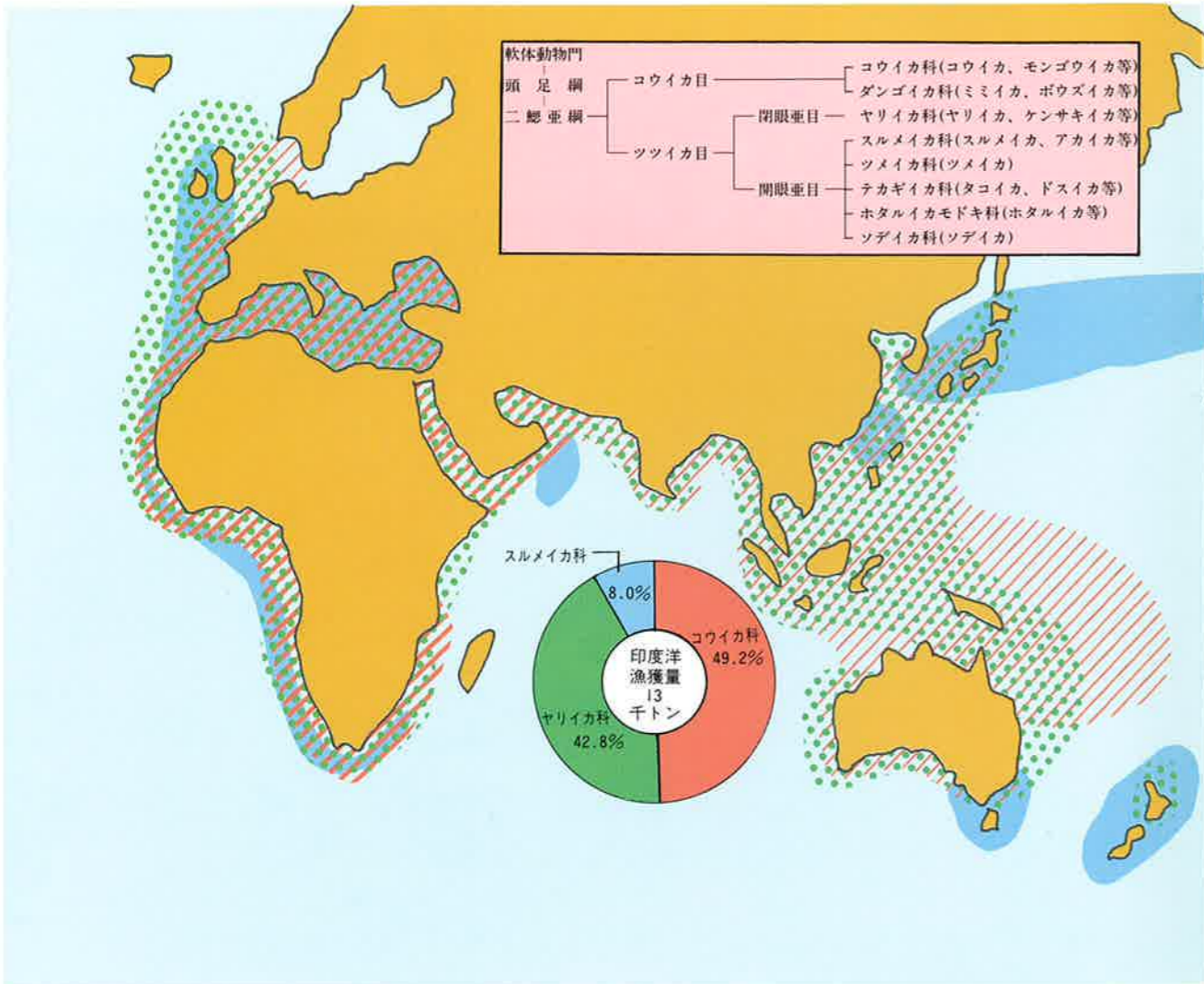
 社団法人 日本水産資源保護協会
〒100 東京都千代田区永田町1-11-35
全国町村会館 TEL03-593-2481

表紙の写真はコブシメです。
コウイカの仲間では最大の種で、外套
長は50cmにもなります。わが国では奄
美大島、琉球に産します。



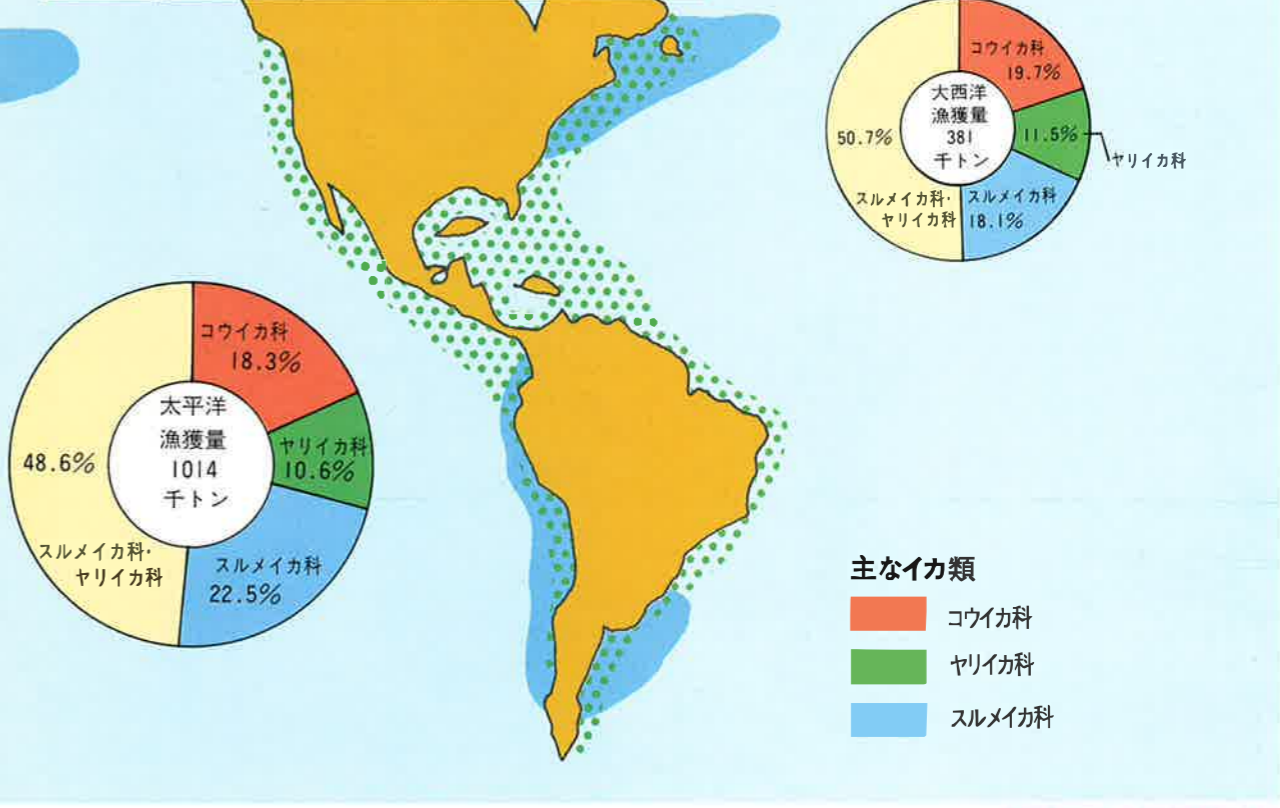
 社団法人 日本水産資源保護協会

世界のイカ類



主要3科の見分け方

種類	外套膜(胴)の型	ひれ	眼	背中の貝殻
コウイカ科	きんちゃく型	胴全体にわたる	透明な膜でおおわれている	石灰質の舟形の甲
ヤリイカ科	細長い筒型	縦長の菱型(例外:アオリイカ)	同上	キチン質の木の葉様軟甲
スルメイカ科	筒型	菱型	膜でおおわれていない	キチン質の細長い木の葉様軟甲



漁獲量はFAO 1983年資料による

イカの仲間は、世界で約450種知られており、そのうち約60種が漁獲の対象になっています。この大部分は、コウイカ科、ヤリイカ科(ジンドウイカ科)およびスルメイカ科(アカイカ科)に属しています。

コウイカ科は、世界で120種ほど知られています。インド洋～西太平洋の温帯～亜熱帯域に多く分布していますが、南北アメリカ大陸沿岸には全くいません。沿岸の海底近くで生活し、地方ごとに小回遊して、繁殖していま

す。外套長20cm以下の小型種が多いのですが、コブシメ、モンゴウイカなど30～50cmに成長する大型種もいます。

ヤリイカ科は、世界に約60種おり、そのうち40数種がインド洋～西太平洋の温帯域に分布しています。コウイカ科より沖合まで回遊しますが、大陸棚より外に出ることは、ほとんどありません。ヤリイカ、ケンサキイカ、アオリイカ等外套長が20cmを超える大型種や、ジンドウイカ等20cm以下の小型種など、大きさはさまざまです。

スルメイカ科は、世界で約25種知られており、全世界に広く分布しています。これらは、スルメイカ、マツイカ、アカイカの3亜科に分けられています。スルメイカ亜科(スルメイカ、ニュージーランドスルメイカ等)とマツイカ亜科(カナダイレックス、アルゼンチンレックス等)は、主に陸棚外縁を生活域として大回遊しますが、アカイカ亜科(アカイカ、トビイカ等)は、もっと沖合の大洋に広く分布・回遊しています。

以上のように、現在漁獲されているイカのほとんどは、大陸棚とその外縁水域或いは大洋の表層に生息していますが、もっと深いところにも多くの珍しい未利用のイカがいます。これらの中には、マッコウクジラ、イルカ、マグロ等の餌となっているものも多く、将来は私達の食卓に上るようになるかも知れません。



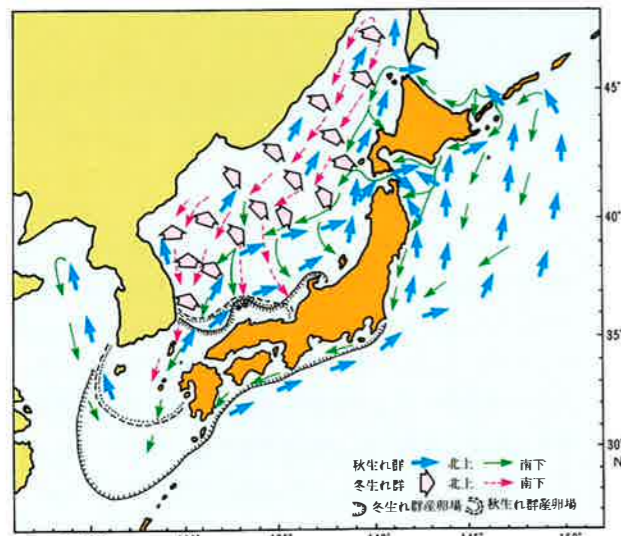
イカの寿命: イカは1年で成熟し、産卵死亡するものが多く、コウイカ、シリヤケイカ、ヤリイカ、ケンサキイカ、スルメイカ、マツイカ等、何れも寿命は1年です。しかし、大型のヨーロッパコウイカは、少なくとも2年以上、アカイカ

の雌の中には2年生きるものもいるといわれています。

日本産のイカ類

日本近海で獲れるイカの、主な種類と分布を下表にまとめました。

種類	成体の平均外套長 (cm)	沖縄	太平洋(含むオホーツク海)			日本海
			本州中西部	本州東北部	北海道	
コウイカの仲間						
コウイカ科						
トラフコウイカ	36					
カミナリイカ	38					
コブシメ	50					
コウイカ	18					
ヒメコウイカ	7					
シリヤケイカ	20					
ダンゴイカ科						
ミミイカ	4					
ボウズイカ	7					
ヤリイカの仲間						
ヤリイカ科						
ケンサキイカ	35					
ブドウイカ	25					
ヒラケンサキイカ	30					
ヤリイカ	40					
ジンドウイカ	10					
ベイイカ	10					
アオリイカ	45					
スルメイカの仲間						
スルメイカ科						
スルメイカ	30					
フィリピンスルメイカ	30					
アカイカ	45					
トビイカ	35					
スジイカ	11					
その他のイカ						
ツメイカ科						
ツメイカ	29					
テカギイカ科						
タコイカ	35					
ドスイカ	22					
ホタルイカモドキ科						
ホタルイカ	5					
ソデイカ科						
ソデイカ	80					



スルメイカの回遊模式図

資料：新谷久男(1981)による



マツイカとは： 近年、大西洋のイレックス類(カナダイレックス、アルゼンチンイレックス等)が大量に獲られるようになってから、これらは市場でマツイカと呼ばれるようになりました。本来は、ホタルイカが発光することから、松明の「マ



コウイカ

Sepia esculenta

コウイカ科の中で、最も普通の種類です。外套背面に横縞があり、ひれのつけねに添って白線があるのが特徴です。地区別に小規模に回遊し、春・夏季に湾奥の浅海で産卵します。マイカ、ハリイカ、スミイカともいわれます。



シリヤケイカ

Sepiella japonica

外套膜背面に小白点があり、腹側は蒼白色です。胴の後端から赤褐色の粘液を出すので、この名があります。瀬戸内海に多く、5月頃産卵します。



カミナリイカ(モンゴウイカ)

Sepia lycidas

大型種で、外套背面に眼のような紋があります。春に産卵し、南西日本で獲れます。ギッチョイカ、マルイチ、モンゴともいわれます。



ヤリイカ

Loligo bleekeri

ヤリイカ科の中で最も普通の種で、日本全国に分布します。スルメイカに比べて、腕が短く、外套膜が細長く、ひれも細長い菱形です。3月～5月に産卵します。ササイカ、テナシ等ともいわれます。なお、アオリイカは、ひれが外套膜のほぼ全体にわたっていますが、ヤリイカの仲間です。



ケンサキイカ

Loligo edulis edulis

外見は、ヤリイカによく似ています。青森県以南に分布しますが、とくに九州西方、五島周辺に多く分布しています。春～夏期、産卵のため沿岸に寄ります。メヒカリイカ、ゴトウイカ、マワシッコともいわれます。



ジンドウイカ

Loligo japonica

ヤリイカ科ですが、小型種でズングリした感じのイカです。全国に分布し、春～夏に内湾で産卵します。コイカ、ヒイカ、ボウズイカともいわれます。



スルメイカ

Todarodes pacificus

日本の代表的なイカで、年間漁獲量は20～30万トンです。日本海と太平洋の沿岸や沖合を回遊します(左頁下図参照)。冬生まれ、夏生まれ、秋生まれの三つの発生群が知られています。ムギイカ(6月頃獲れたもの)、マイカともいわれます。



アカイカ

Ommastrephes bartramii

昭和50年頃から獲られるはじまりました。体形は、スルメイカに似ていますが、大型で肉厚、体色は黒紫色でスルメイカより沖合に分布し、主漁場は千島～アリューシャン列島の南の海域です。産卵場は、これよりずっと南方海域と考えられています。ムラサキイカともいわれます。



ホタルイカ

Watasenia scintillans

小型種で、体に多数の発光器があります。日本海側、熊野灘以北の本州及び北海道の太平洋側に分布し、通常は水深200～600m層にいます。富山湾では、初夏に大群が沿岸の表層に集まるので有名です。

ツ」をとって名付けられた富山地方の呼び名です。スルメイカも、地方によってはマツイカと呼ばれています。